



アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ「エプサ」 EPSA for Africa (Enhanced Private Sector Assistance for Africa)

○2005年7月のG8グレンイーグルズ・サミット（英国）において、日本政府は、アフリカ開発銀行グループとともに、アフリカの民間セクター開発に関する共同イニシアティブ「EPSA for Africa」を発表。日本から、5年間で10億ドルの円借款供与を表明。2012年6月、G20ロスカボス・サミット（メキシコ）において、新たに5年間で10億ドルの円借款供与を表明。2014年1月、エチオピアにおける安倍総理によるアフリカ政策スピーチにおいて、これを20億ドルにすることを表明。

○これまで、民間セクターに対する円滑な資金供給や電力・道路をはじめとするインフラ整備等へ円借款を供与し、2005年の公約を達成。

EPSAの下で、5年間（2012年－2016年）で20億ドルの円借款を供与する。

EPSA for Africa の概要

目的：アフリカの民間セクター開発を包括的に支援

主要5分野：投資環境整備、金融セクター強化、経済・社会インフラ整備、中小零細企業支援、貿易・直接投資促進

融資

- 民間セクター育成・投資基盤整備等支援のための融資の拡充**
- ・ アフリカ開発銀行グループと国際協力機構（JICA）との協調融資促進スキーム等を実施。アフリカ開発銀行の知見を活かして資金供給の迅速化・効率化を図り、民間セクター開発を支援。
 - ・ 融資方法には、①政府及び政府機関等に対するアフリカ開発銀行/基金との協調融資（ソブリン向けの融資）、②アフリカ開発銀行の民間セクター向けノンソブリン業務に対する円借款（ノンソブリン向けの融資）、の2つがある。

技術支援 無償援助

- 信託基金（FAPA: Fund for African Private-Sector Assistance）**
- ・ アフリカ開発銀行グループに設置された、中小零細企業育成、金融機関の能力向上、公共部門のガバナンス強化のための技術支援等を実施する基金。